

授業改善推進プラン

第2学年

東大和市立第七小学校

<p>学習規律等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て、静かに話を聞く。 ・家庭学習を確実に行う。(学年×10分) ・場に応じた声の大きさと話す。 ・個々の実態に沿っためあてを設定し、学習活動に最後まで取り組む。 		
	<p>今年度の課題 (育てたい資質・能力)</p>	<p>具体的な授業改善 (主体的・対話的で深い学びの視点を中心に)</p>	<p>評価</p>
<p>国語</p>	<p>○知識及び技能 語彙力に乏しい傾向がある。 身近なことを表す語句の量を増やし、文章の中で使うとともに、言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習と連携して毎日音読、漢字学習に取り組む。 ・1人1台端末を活用し、すすんで語句を調べたり、教科書の「ことばのたからばこ」等を活用して文章を書く学習を積み重ねたりすることで、語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携し、音読や漢字学習に継続的に取り組むことができ、習熟を図ることができた。 ・1人1台端末を活用した学習により、たくさんの言葉に触れ、語彙を増やすことができた。
<p>算数</p>	<p>○知識及び技能 文章問題に苦手意識がある。 加法、減法及び乗法の計算をしたり、図形を構成したり、長さやかさを測定したり、表やグラフにしたりすることなどについて、技能を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの結果や日々の学習課題への取り組み状況等を参考に一人一人の習熟状況を適宜確認し、個に応じた支援を実施する。問題で着目すべき点等を明確にして指導を行う。 ・繰り上がり、繰り下がりのある計算や九九について、家庭学習と連携し、学習内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルテストの結果や授業内の様子を基に個々の課題を把握し、習熟度に応じて指導にあたることができた。 ・九九の学習について、家庭学習と連携して定着を図ることができた。
<p>生活</p>	<p>○学びに向かう力、人間性等 出された問題を解決することはできるが、自ら問題を探して解決することに課題がある。身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心に合った活動内容を選択し、意欲的に活動できるようにする。 ・児童の身の回りにあつて、児童自身と関係の深い人々や社会及び自然に親しく関わり、それらを直接的、間接的に感じ取る具体的な活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちたんけんなどの学習を通して、地域と多く関わり、地域愛を育むことができた。 ・おもちゃやさんに招待したり招かれたりしたことで、1年生や九小の2年生との交流を深め、自信をもつことができた。
<p>体育</p>	<p>○学びに向かう力、人間性等 勝敗受容が苦手な児童が多い。 きまりを守り、誰とでも仲よく運動したり、健康・安全に留意したりし、各種の運動遊びに、すすんで取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く楽しく運動ができるように、場や用具を工夫するとともに、ルールを簡素化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童が友達と関わり合いながら楽しく運動をすることができた。 ・安全に気を付けながら運動遊びをすることができた。